

Ⅱ 社会の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「内容」ごとに1～7までの大問を示した。「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 調査結果の概要と分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示した。

（◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント）

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に記した。

※ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

評価の観点 1…社会的事象への関心・意欲・態度
3…資料活用 の 技能

2…社会的な思考・判断・表現
4…社会的事象についての知識・理解

領域	内容	大問	小問	設 問 の ね ら い	評価の観点			
					1	2	3	4
地理的分野	世界の地域構成	1	(1)	地図上での本初子午線の位置を理解している。			○	○
			(2)	大西洋の位置について、世界の主な国の位置と関連付けて理解している。			○	○
			(3)	アフリカに直線の国境線が多い理由を説明することができる。	○	○		○
			(4)	正距方位図法の見方を理解し、世界の大陸についての知識を身に付けている。			○	○
			(5)	内陸国についての知識を身に付けている。			○	○
			(6)	正距方位図法の特徴について、理解している。				○
				正距方位図法の特徴について、理解している。				○
	生活と世界の環境	2	(1)	シベリア地方の気候の特徴について、理解している。			○	○
			(2)	イタリアの気候の特徴について、理解している。			○	○
			(3)	熱帯の特徴を理解し、その特色を示している雨温図を読み取ることができる。			○	○
	世界の諸地域	3	(1)	サウジアラビアが産出する鉱産資源について理解している。			○	○
			(2)	グラフから、2か国の人口増加の特色を読み取り、その相違点と背景を関連付けて判断することができる。		○	○	○
			(3)	EUについて、理解している。				○
				EUの特色が、生活や経済に及ぼす影響について理解している。				○
			(4)	グラフから、日本、ドイツ、アフリカ諸国の輸出品目の特色を読み取り、その相違点と背景を関連付けて判断することができる。		○	○	○
			(5)	資料から、アメリカの農業の特色について、読み取ることができる。		○	○	○
				資料から、アメリカの農業の特色について、読み取ることができる。		○	○	○
			(6)	オセアニア州とアジア州の結びつきが強くなった理由について、理解している。				○
歴史的分野	歴史の流れ	4	(1)	縄文時代の文化財について理解している。			○	○
			(2)	中世という時代区分がいつ頃かを理解している。				○
			(3)	西暦と世紀の関係を理解している。				○
			(4)	藤原道長についての知識を身に付けている。				○
	古代までの日本	5	(1)	古代から中世にかけての時代の様子を整理し、古い順に並べ替えることができる。		○		○
			(2)	はにわについての知識を身に付けている。				○
			(3)	紫式部が書いた源氏物語について、理解している。				○
			(4)	資料を読み取り、「十七条の憲法」であることを見出すことができる。			○	○
			(5)	聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明している。	○	○		○
	中世の日本	6	(1)	室町時代の様子について理解している。		○		○
			(2)	足利尊氏が幕府を開いた位置を理解している。				○
			(3)	「北条政子の訴え」を読み取り、内容を解釈し、いつの時代かを判断することができる。		○	○	○
			(4)	馬借について、理解している。			○	○
	歴史のテーマ	7	(1)	文化財等から時代を特定し、それを古い順に並べることができる。			○	○
			(2)	土偶の使用された理由について、理解している。				○
			(3)	平等院が建立された頃の信仰の特色について理解している。				○
			(4)	奈良の大仏が建立された頃の日本と外国とのかわりについて、理解している。				○
			(5)	鎌倉幕府の政治について、理解している。		○		○

2 調査結果の概要と分析

全体	◇全体の正答率は、62.2%であり、設定通過率を6.0ポイント下回った。領域別の正答率は、「地理的分野」が68.1%、「歴史的分野」が56.4%であった。 ◇内容ごとの正答率では、「世界の地域構成」が64.6%、「世界各地の生活と環境」が69.0%、「世界の諸地域」が70.8%、「歴史の流れ」が57.4%、「古代までの日本」が59.2%、「中世の日本」が47.8%、「歴史のテーマ」が59.6%だった。 ◆観点別に集計した正答率では、「社会的な思考・判断・表現」が低かった。また、文章で答える問題は、正答率が低く、無解答率が高い結果となった。				
領域別	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="245 526 308 1041">地理的分野</td><td data-bbox="308 526 1425 1041"> ◇地理全体の正答率は68.1%と昨年度の65.7%と比べて2.4ポイント上回った。 ◇「世界の地域構成」の本初子午線に関する問題の正答率は83.9%であり、昨年度を24.4ポイント上回り、大幅に改善されたといえる。 ◆正距方位図法の特色と世界の大陸についての知識を問われる問題が34.6%と正答率が低かった。設定通過率が60%であり大幅に下回った。昨年度も面積を正しく表す地図に関する問題の正答率が低かった。目的に応じて地図を活用する力が不足している。 ◆「世界の諸地域」ではサウジアラビアが産出する鉱産資源の問題の正答率について、昨年度が55.6%、今年度が53.7%となっており、引き続き指導の改善が求められる。 ○文章で表現する問題は、無解答率が高かった。この結果から、文章で表現する問題に対して苦手意識がみられることがわかる。改善策として授業等において得た知識を基に事象等について説明する機会を増やすことが必要である。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="245 1041 308 1585">歴史的分野</td><td data-bbox="308 1041 1425 1585"> ◆「歴史の流れ」では、中世という時代区分がいつ頃かの理解を問う問題の正答率が、31.9%と低く、時代認識による時代の表し方についての学習ができていない。 ◆「古代までの日本」では、聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明する問題の正答率が46.7%で、無解答率が22.3%であり説明する力に課題がある。 ◆「中世の日本」では、室町時代の文化について問う問題の正答率が41.4%、中世の産業（馬借）について問う問題の正答率が31.3%と、いずれも設定通過率を大きく下回っている。また、中世の産業（馬借）について問う問題は無解答率が34.3%と高い。 ◆「歴史のテーマ」においても、鎌倉幕府の政治について理解しているかを問う問題の正答率が40.9%であり、設定通過率を下回っている。 ○歴史学習の基礎となる時代区分などの基本的な知識を確実に身に付けさせる指導が必要である。また、日常的に年表や資料などを使うことから、歴史事象を一つひとつ暗記するのではなく、関連をもったものとして理解させることで、歴史を大づかみすることが重要である。「古代」とは、「中世」とはどんなものであったかを多角的に理解させていくことが求められている。 </td></tr> </table>	地理的分野	◇地理全体の正答率は68.1%と昨年度の65.7%と比べて2.4ポイント上回った。 ◇「世界の地域構成」の本初子午線に関する問題の正答率は83.9%であり、昨年度を24.4ポイント上回り、大幅に改善されたといえる。 ◆正距方位図法の特色と世界の大陸についての知識を問われる問題が34.6%と正答率が低かった。設定通過率が60%であり大幅に下回った。昨年度も面積を正しく表す地図に関する問題の正答率が低かった。目的に応じて地図を活用する力が不足している。 ◆「世界の諸地域」ではサウジアラビアが産出する鉱産資源の問題の正答率について、昨年度が55.6%、今年度が53.7%となっており、引き続き指導の改善が求められる。 ○文章で表現する問題は、無解答率が高かった。この結果から、文章で表現する問題に対して苦手意識がみられることがわかる。改善策として授業等において得た知識を基に事象等について説明する機会を増やすことが必要である。	歴史的分野	◆「歴史の流れ」では、中世という時代区分がいつ頃かの理解を問う問題の正答率が、31.9%と低く、時代認識による時代の表し方についての学習ができていない。 ◆「古代までの日本」では、聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明する問題の正答率が46.7%で、無解答率が22.3%であり説明する力に課題がある。 ◆「中世の日本」では、室町時代の文化について問う問題の正答率が41.4%、中世の産業（馬借）について問う問題の正答率が31.3%と、いずれも設定通過率を大きく下回っている。また、中世の産業（馬借）について問う問題は無解答率が34.3%と高い。 ◆「歴史のテーマ」においても、鎌倉幕府の政治について理解しているかを問う問題の正答率が40.9%であり、設定通過率を下回っている。 ○歴史学習の基礎となる時代区分などの基本的な知識を確実に身に付けさせる指導が必要である。また、日常的に年表や資料などを使うことから、歴史事象を一つひとつ暗記するのではなく、関連をもったものとして理解させることで、歴史を大づかみすることが重要である。「古代」とは、「中世」とはどんなものであったかを多角的に理解させていくことが求められている。
地理的分野	◇地理全体の正答率は68.1%と昨年度の65.7%と比べて2.4ポイント上回った。 ◇「世界の地域構成」の本初子午線に関する問題の正答率は83.9%であり、昨年度を24.4ポイント上回り、大幅に改善されたといえる。 ◆正距方位図法の特色と世界の大陸についての知識を問われる問題が34.6%と正答率が低かった。設定通過率が60%であり大幅に下回った。昨年度も面積を正しく表す地図に関する問題の正答率が低かった。目的に応じて地図を活用する力が不足している。 ◆「世界の諸地域」ではサウジアラビアが産出する鉱産資源の問題の正答率について、昨年度が55.6%、今年度が53.7%となっており、引き続き指導の改善が求められる。 ○文章で表現する問題は、無解答率が高かった。この結果から、文章で表現する問題に対して苦手意識がみられることがわかる。改善策として授業等において得た知識を基に事象等について説明する機会を増やすことが必要である。				
歴史的分野	◆「歴史の流れ」では、中世という時代区分がいつ頃かの理解を問う問題の正答率が、31.9%と低く、時代認識による時代の表し方についての学習ができていない。 ◆「古代までの日本」では、聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明する問題の正答率が46.7%で、無解答率が22.3%であり説明する力に課題がある。 ◆「中世の日本」では、室町時代の文化について問う問題の正答率が41.4%、中世の産業（馬借）について問う問題の正答率が31.3%と、いずれも設定通過率を大きく下回っている。また、中世の産業（馬借）について問う問題は無解答率が34.3%と高い。 ◆「歴史のテーマ」においても、鎌倉幕府の政治について理解しているかを問う問題の正答率が40.9%であり、設定通過率を下回っている。 ○歴史学習の基礎となる時代区分などの基本的な知識を確実に身に付けさせる指導が必要である。また、日常的に年表や資料などを使うことから、歴史事象を一つひとつ暗記するのではなく、関連をもったものとして理解させることで、歴史を大づかみすることが重要である。「古代」とは、「中世」とはどんなものであったかを多角的に理解させていくことが求められている。				
継続してみられる課題	〈地理的分野〉 ◆知識と統計資料を読み取った結果を結び付けて考察する力が不十分である。また、目的に応じて地図を活用する力が不足している。 〈歴史的分野〉 ◆各時代の特色をつかみ、我が国の歴史の大きな流れを理解することに課題がある。また、歴史学習の基礎となる年代の表し方や、時代区分についての理解が不足している。 〈地理的分野・歴史的分野共通〉 ◆習得した基礎的・基本的知識を関連付けたり、活用したりすることに課題がある。複数の資料を比較し、読みとった資料からわかることを既存の知識と関連付けて思考する力が不足している。また、文章で答える問題において、無解答率が高い。				

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

(1) 世界の地域構成 (2) 世界各地の生活と環境

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の正 答率	市の無 解答率	設定 通過率
1	(1)	地図Ⅰを見て本初子午線に当たるものを地図Ⅰの 1 ～ 4 の中から一つ選ぶ。	1	3		83.9	0.8	80
	(2)	地図Ⅰを見て次の国（アメリカ合衆国 ブラジル キューバ ポルトガル 南アフリカ共和国）が共通して接している海洋を下の 1 ～ 3 の中から選ぶ。 1 大西洋 2 太平洋 3 インド洋	1	2		64.0	0.9	70
	(3)	地図Ⅰを見てアフリカ州の国々に、まっすぐな国境線が見られる理由を次の語句を用いて説明する。 （ ヨーロッパ 植民地 ）	略	略		46.0	12.6	60
	(4)	地図Ⅱを見て東京から真東に進んで通過しない大陸を次の 1 ～ 4 の中から選ぶ。	4	2		34.6	1.4	60
	(5)	地図Ⅰ中の A や B の国のように海岸線をもたない国を漢字三字で答える。	内陸国	島国 独立国		59.1	20.1	65
	(6)	正確な項目 地図Ⅱで正確にあらわされているものは何か次の 1 ～ 4 の中から二つ答える。 1 中心からの距離 2 緯線と経線の交わる角度 3 面積 4 中心からの方位	1	2		89.0	1.1	80
正確な項目		4	3		75.8	1.5	75	
2	(1)	地図Ⅲ中の X の地域の気候の特色について述べている文で正しいものを次の 1 ～ 4 の中から選ぶ。	1	2		53.5	1.3	60
	(2)	次の説明文に最も適する国を、地図Ⅲ中の 1 ～ 4 の中から選ぶ。 この国では、ぶどう作りやオリーブ作りが盛んに行われている。夏は暑く乾燥していて、冬に雨が多く降る。	2	1 ・ 4		77.1	2.3	75
	(3)	次のア～ウのグラフの中から地図Ⅲ中の都市、ナディをあらわしたものを選ぶ。	イ	ア		76.4	1.4	75

(単位：%)

世界の地域構成・世界各地の生活と環境

問題 1 (3)

こうすけさんは、**地図Ⅰ**を見てアフリカ州の国々に、まっすぐな国境線が見られることに気づきました。その理由を次の語句を必ず用いて、簡単な文章で答えなさい。

(ヨーロッパ 植民地)

分析 正答率は46.0%であり、アフリカ州がヨーロッパ諸国によって植民地支配されていたことにはふれているが、緯線や経線を国境線に使用したことについてふれていない誤答が多い。単純に語句をつなげている誤答も多く、文章で表す問題に慣れていないことがわかる。

問題 1 (4)

地図Ⅱを見て、東京から真東に進んで世界一周する場合、通過しない大陸を次の**1～4**の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ユーラシア大陸 **2** 南アメリカ大陸 **3** アフリカ大陸 **4** 北アメリカ大陸

分析 正答率は34.6%であり、正距方位図法がどのような特徴をもった図法であることかを理解する力が不足していると考えられる。また、世界六大陸の位置と名称が一致していないことから、通過しない大陸がどこか分かっていても正解できていないことが考えられる。

問題 2 (1)

かおるさんは、**地図Ⅲ**中の**X**の地域の気候について、さいたま市との違いに着目しました。**地図Ⅲ**中の**X**の地域の気候の特色について述べた文章として適切なものを、次の**1～4**の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1** この地域は夏が暑く、冬は寒い。さいたま市よりも一年の気温差が大きい。
- 2** この地域では、さいたま市と異なり、5月から10月にかけての雨の多い雨季と11月から4月の雨が少ない乾季がある。
- 3** 赤道に近いが標高4000m付近のこの地域は、さいたま市の夏の気温と比べて、一年中すずしい。
- 4** この地域の気温は一年を通しておよそ25℃と高く、さいたま市と異なり、季節の変化がほとんどない。

分析 正答率は53.5%であり、Xの地域が気温差の大きい地域であるということを理解していない。選択肢2の誤答が多かったことは、選択肢2が気温についての記述がなかったためと考えられるが、世界の気候の特色に対する理解が不十分であるといえる。

指導のポイント

1 知識を基に記述する問題を増やす工夫をする

文章で表現する問題に対して苦手意識がみられることから、授業等で得た知識を基にして様々な事象の歴史的背景や要因等を説明する機会を増やし、生徒の思考力・表現力を伸ばす工夫をする。例えば、授業の課題に対しての自分なりの考えを記述させるとよい。

2 地球儀や様々な地図の特色を整理して理解させる

生徒が目にする機会が多い地球儀や地図についての特色を整理して理解させる必要がある。例えば、地図帳を活用して調べ学習を行うことや、目的に応じて使用する地図を使い分けたり、理解しやすい表を作成させたりするとよい。

3 世界の気候分布の特色をつかませる工夫をする

世界各地の気候を取り扱う際に、気候帯の分布の様子を白地図やワークシートに着色したり、雨温図を作成する。そして、それらをICT機器を活用して視覚的にとらえさせるなどの工夫が必要である。日本と比較することで世界と日本の気候の違いに気付かせる学習場面の設定を行うことも効果的である。

(3) 世界の諸地域

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の 正答率	市の無 解答率	設定 通過率
[3]	(1)	資料1 (鉱産資源の国別生産割合を示したもの) はどの鉱産資源の割合をあらわしたものか1～4の中から選ぶ。	2	1・3		53.7	1.2	60
	(2)	資料2についてまとめた下の文の(ア)・(イ)に当てはまる言葉の正しい組み合わせをあとの1～4の中から選ぶ。 1 ア 増やす イ 高い 2 ア 増やす イ 低い 3 ア 増やさない イ 高い 4 ア 増やさない イ 低い	3	2		84.0	2.2	80
	(3)	組織名 ヨーロッパの多くの国が加盟している組織の名称を答える。	EU	ASEAN		69.1	15.4	75
		組織について 組織について正しく述べている文を次の1～4の中から選ぶ。 1 ほとんどの国境では、パスポートの検査がなく、自由に国境を通過できる。 2 加盟国間で他の国に会社をつくったり、他の国の銀行にお金を預けたりすることはできない。 3 共通通貨のユーロは、すべての加盟国が採用している。 4 加盟国の輸出・輸入のときには、関税がかかる。	1	3		62.4	4.6	65
	(4)	資料3を読み取り、文章中() ア～ウに当てはまる語句の正しい組み合わせを1～4の中から選ぶ。	2	4		70.9	2.1	70
	(5)	アメリカの農業 資料4を見て、アメリカの農業を正しくあらわしているものを1～5の中から二つ選ぶ。 1 アメリカは、農業従事者が3か国の中で最も少ない。 2 アメリカは、穀物生産量のうち、約4分の1を輸出している。 3 アメリカは、穀物国内供給量が3か国の中で最も多い。 4 アメリカは、広大な農地に対して多くの人手を使って農業を行っている。 5 アメリカは、広大な農地に対してトラクターを使い、少ない人手で農業を行っている。	2	3		75.4	2.1	75
		アメリカの農業 アメリカの農業	5			79.3	2.1	80
	(6)	オセアニア州がアジアの国々との交流が盛んになった理由を1～4の中から選ぶ。 1 オセアニア州の国々は、アジア州の国々と季節が同じだから。 2 オセアニア州の国々は、ヨーロッパの国々との交流をやめてしまったから。 3 アジア州の国々は、その経済力が高まってきたから。 4 アジア州の国々は、オセアニア州の国々の植民地だったから。	3	1・2		71.8	2.9	70

(単位：%)

世界の諸地域

問題 3 (1) ※資料省略

なおこさんは、地図ⅣのAの国が、世界でも有数なある鉱産資源の産出国だということを知りました。次の資料Ⅰは、この鉱産資源の国別生産割合を示したものです。この鉱産資源を下の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 石炭 2 原油 3 鉄鉱石 4 銅

分析 正答率は53.7%であり、A国をサウジアラビアと認識していないことが考えられる。また、選択肢1・3の誤答が多いことから、おもな鉱産資源が世界のどの地域に多く分布しているかという知識が不足していることが考えられる。

問題 3 (3)

あやかさんは、ヨーロッパ州の国家が枠をこえて経済的に協力する動きについて調べました。このことについて、1993年にヨーロッパ共同体（EC）から発展し、ヨーロッパの多くの国が加盟している組織の名称を答えなさい。また、この組織について説明した文として正しいものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ほとんどの国境では、パスポートの検査がなく、自由に国境を通過できる。
- 2 加盟国間で他の国に会社をつくったり、他の国の銀行にお金を預けたりすることはできない。
- 3 共通通貨のユーロは、すべての加盟国が採用している。
- 4 加盟国間の輸出・輸入のときには、関税がかかる。

分析 「EU」を答える問題の正答率は69.1%であるが、無解答率が15.4%となっている。誤答はASEANやAUなどがあつたが、最も多かったのが無解答となっている。これはEUについての理解が不足しているからと考えられる。EUの特色について答える問題の正答率は62.4%となっている。選択肢3の誤答が多い。ユーロがEU加盟国内のすべてで使われていると考えていることが分かる。

指導のポイント

1 おもな鉱産資源の産出地について、位置と統計を結び付けさせる

世界のおもな鉱産資源について、その産出地をワークシートや白地図などに着色させ、世界のどのあたりに分布しているか視覚的にとらえさせる工夫をする。

また、ICT機器を活用して作業させた学習内容を全体で確認することや、統計グラフの読み取りを授業で取り入れていく。

2 世界のおもな組織について理解させる

世界の諸地域にある組織（例：EUやASEANなど）について正しく理解していない生徒が多いと考えられるため、それぞれの組織がどの地域に存在し、どのような役割を果たしているかを表などにまとめさせるとよい。

(4) 歴史の流れ

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
4	(1)	略年表中の縄文時代にもっとも関係の深い写真資料を、次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。 1 銅鏡 2 銅鐸 3 縄文土器 4 漆胡瓶	3	2		85.4	1.4	80
	(2)	様々な時代や年代のあらし方のうち、社会のしくみの特徴によって時代を大きく分けた場合、「中世」に当たる時期を略年表中のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。	エ	ウ		31.9	2.8	60
	(3)	略年表中の桓武天皇が都を平安京に移した794年は、何世紀ですか。数字で答えなさい。	8	7		54.8	7.2	60
	(4)	略年表中のXには、ある人物が当てはまります。下の文を参考に、その人物名を答えなさい。 ・寝殿造と呼ばれる住居に住んでいた。 ・娘を天皇のきさきにし、その子を次の天皇にたてることで、勢力をのばした。 ・子の頼通と摂関政治をきわめ、政権を独占した。	藤原道長	源頼朝		57.4	9.7	65

歴史の流れ

(単位：%)

問題 4 (2) (3)

(2) 様々な時代や年代のあらし方のうち、社会のしくみの特徴によって時代を大きく分けた場合、「中世」に当たる時期を略年表中のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

(3) 略年表中の桓武天皇が都を平安京へ移した794年は、何世紀ですか。数字で答えなさい。

	縄文 じようもん	弥生 やよい	古墳 こふん	飛鳥 あすか	奈良 なら	平安 へいあん	鎌倉 かまくら	室町 むろまち
時代	← ア →		← イ →		← ウ →		← エ →	
できごと		239 卑弥呼が魏に使いをおくる	478 倭王武が中国の南朝に使いを送る	645 中大兄皇子らが天智の改新を始める	794 1016 桓武天皇が都を平安京へ移す X が摂政となる		1392 足利義満が南北朝を統一する	

分析 昨年度と同様の問題であり、(2)については、昨年度が30.6%に対して、今年度が31.9%であった。また、(3)については、昨年度が、45.5%であったのに対して、今年度は、54.8%となり、9.3ポイント上がっている。(2)については、中世の始まりがいつからかという理解が不足している。また、(3)については、無解答率も7.2%で、誤答としては、7世紀が多い。正答率が上がったことの原因として、学習指導要領の改訂により、時代をとらえる指導がされているためと考えられる。世紀と西暦の関係や大まかな時代区分の十分な理解は、歴史学習の基本であり、今後も指導が必要である。

指導のポイント

1 歴史学習の導入における年代の表記や時代区分についての基本的な技能を身に付けさせる

学習指導要領での歴史的分野の内容(1)歴史のとらえ方「ア 我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動」では、西暦と世紀の関係を十分時間をとって説明し理解させる。年表の使用やゲーム的な要素を入れての反復学習も有効である。また、小学校での学習を基に、歴史上の人物などに関心を持たせるような主題を提示して、調べ学習をさせることも有効であろう。

2 歴史学習の導入以外の単元でも、基本的な内容の定着を図る

大まかな時代区分、西暦と世紀の関係は、繰り返して取り上げることで定着を図ることができる。授業ごとに、「今回学習する時代・年」を板書して確認していくことや、小テスト形式でのトレーニングをすることなど、基本的な内容の定着を図る方法を工夫して、日常的に時代や年号などに触れさせていくことが大切である。

歴史学習の導入で習得させたい基礎的・基本的な内容

<年代の表し方>

・西暦(紀元前・紀元後) ・世紀(紀元前・紀元後) ・日本の年号(元号)

<時代区分の方法>

- ・社会の仕組みの特徴による時代区分の呼び方 「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」
- ・政治の中心などに着目した時代の呼び方とそれに関連する呼び方
政治の中心…「平安時代」「鎌倉時代」「江戸時代」など
特色ある文化…「縄文時代」「弥生時代」「古墳時代」など

<年表の読み方、まとめ方>

(5) 古代までの日本

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
5	(1)	カード B～D を年代の古い順に並べ替え、記号で答える。	C D B	C B D		68.5	1.7	75
	(2)	学習カード A のところに、古墳の周辺に並べられた写真資料のものを答える。	埴輪	土偶		74.7	5.4	80
	(3)	学習カード B の頃に紫式部の書いた有名な文学作品名を答える。	源氏物語	枕草子		50.4	16.1	60
	(4)	学習カード C の に当てはまる、聖徳太子が仏教や儒教の考え方を取り入れ、役人の心構えを示した資料名を答える。	十七条の憲法	御成敗式目		55.7	24.6	60
	(5)	学習カード D に に当てはまる、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、二つの語句を必ず使って答える。 〈語句〉 「仏教」「国家」	仏教の力で国家を守るため	仏教を国家に広めるため		46.7	22.3	60

(単位：%)

古代までの日本

問題 5 (5)

学習カードDの[]に当てはまる、聖武天皇が大仏を作らせた理由を、次の語句を必ず用いて答えなさい。

〈語句〉「仏教」「国家」

分析 今年度の正答率が46.7%、無解答率が22.3%で、昨年度と同様に、語句を使用して解答する問題に対する苦手意識があることが分かる。また、誤答例の多くが、「国家に仏教を広めるため」「仏教中心の国家を作ろうとしたため」であり、奈良時代の仏教のあり方である、「鎮護国家の仏教」に対する理解がされていないこと、聖徳太子の仏教に対する考え方との混同が多くみられることが分かる。

一方、(4)の問題の無解答率が高いことも注意が必要である。24.6%と約4分の1の生徒が無解答であった。資料の内容を正しく理解させるように指導することで、資料に対する苦手意識を解消する工夫を図りたい。

指導のポイント

1 歴史におけるその時代ごとの社会背景をしっかりと理解させる指導が必要である

仏教に対する考え方は、時代によって変化している。飛鳥時代は、聖徳太子や蘇我氏による『仏教を国家に広める』という考え方であった。しかし、仏教の広がりに伴い、奈良時代には、『鎮護国家の仏教』としての色彩が強く、疫病の発生や貧困からの不安定な社会に対する国家の平安を求める気運が、聖武天皇の大仏建立につながっている。その時代の社会背景を理解させることが、正しい時代把握につながっていく。

2 書くことに対する苦手意識を克服させる指導が必要である

この問題での解答は、無解答率の高さとともに、書くことに対する苦手意識の高さを示している。このような文章で表現する問いに対して、無解答の生徒が多かった。この苦手意識の克服には、学習した内容をふまえて、自らの考えを自分の言葉でプレゼンテーションさせることが必要である。そのためには、普段の授業の中から、文章に書くことに慣れ、表現力を身に付けさせることが大切である。社会的な事象に関する原因や理由、時代ごとの政治・経済・産業・文化などの共通点や相違点などを、短い文章にまとめて書く活動を繰り返し行わせることは、苦手意識の克服につながる。生徒による相互評価を班内やクラス内で行わせ、他の生徒の考えや学習への姿勢を互いに学ばせることも効果がある。

上記のスキルとして、学習した内容を社会的な背景と関連付け、自分の言葉で表現する力を向上させるため、資料の取り扱い方に対する意図や工夫を大切にしたい。資料を単独で提示し説明するだけでなく、その資料と当時の人々の生活や願いと結び付けることで、より生徒に実感をもたせられる資料となろう。

(6) 中世の日本

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
6	(1)	年表 中の 工 の時期の日本の様子として正しいものを、 1～4 の中から一つ選ぶ。 1 御成敗式目がつくられ、裁判の基準が御家人たちに示された。 2 北条氏は将軍の力を弱めて執権の地位につき、その地位を独占するようになった。 3 平清盛は、後白河上皇の院政を助け、武士としてはじめて太政大臣となった。 4 貴族や武士が愛好していた猿楽や田楽などの芸能を、観阿弥・世阿弥親子が能として大成した。	4	2		41.4	2.8	60
	(2)	年表 中 X の足利尊氏が幕府を開いた場所（京都）を、地図中の 1～4 の中から一つ選ぶ。	2	4		69.0	2.2	70
	(3)	源頼朝の妻である北条政子が鎌倉の武士に対して訴えた内容を表した資料をよみ、その時期を 年表 中の ア～エ の中から一つ選ぶ。	イ	ウ		49.4	3.2	60
	(4)	中世の陸上運送業者である、「馬借」の名称を答える。	馬借	座		31.3	34.3	60

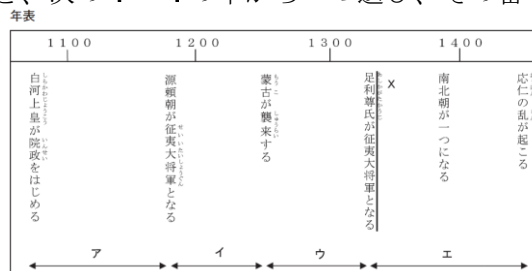
(単位：％)

中世の日本

問題 6 (1)

年表中の**工**の時期の日本の様子として正しいものを、次の**1～4**の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 御成敗式目がつくられ、裁判の基準が御家人たちに示された。
- 北条氏は将軍の力を弱めて執権の地位につき、その地位を独占するようになった。
- 平清盛は、後白河上皇の院政を助け、武士としてはじめて太政大臣となった。
- 貴族や武士が愛好していた猿楽や田楽などの芸能を、観阿弥・世阿弥親子が能として大成した。



分析 正答率は 41.4％である。室町時代の様子についての理解について問う問題である。正解の猿楽・田楽以外は、すべて平安末期から鎌倉期の政治的な動きであったことから、室町時代の生活や文化の理解が不足していることが、正答率の低さにつながったものと考えられる。

問題 6 (3) ※資料省略

次の資料は、承久の乱の際に、源頼朝の妻が鎌倉の武士たちに訴えたものです。この訴えが行われた時期として正しいものを、**年表**中の**ア～エ**の中から一つ選び、その記号を答えなさい。

分析 正答率は、49.4%と低かった。北条政子の承久の乱における訴えは、資料として教科書にもあり、生徒は理解しているが、鎌倉時代の歴史の流れを大きくつかんでいないことが、誤答の原因となった。誤答の多くは「ウ」であり、元寇以後の鎌倉幕府滅亡につながる出来事と考えていたようである。また、北条政子が頼朝の妻であり、尼將軍と呼ばれたことを理解していれば選択できる問題であり、年表などの読み取りも含めて時代の流れを大きくとらえていくことができるように指導していくことが大切である。

指導のポイント

1 時代を「大づかみ」して、時代の特色を理解させる

学習指導要領の歴史的分野の内容には、(1) 歴史のとらえ方「ウ 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。」とあり、また内容の取り扱いには、「ウについては、内容の(2) 以下の各時代の学習のまとめとして実施することを原則とすること。その際、各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成した上で、他の時代との共通点や相違点に着目しながら、大観や表現の仕方を工夫して、各時代の特色をとらえさせるようにすること。」とある。

単元の導入では、前の時代との比較などから、学習課題を設定し、その時代の特徴を考察しようとする意欲・興味を持たせる。そして、まとめにおいては、政治や産業、社会の様子や文化の特色などを、学習した内容と結び付けて自分の言葉でまとめさせるとよい。

2 時代の特色を自分の言葉で表現できるように指導する

1でふれた、時代を大観し表現する活動は、各時代の特色を大きくとらえ、言葉や図表などで表現し、意見交換することができる活動である。各時代が終わるごとに100字程度でその時代の特色をまとめさせたり、その時代を「キーワード」で表す言葉を考えさせたりするなど、言語活動を生かした方法が考えられる。また、導入時に予想したことをまとめて最後に確認するような取組もでき、継続的に行うことにより、それぞれの時代の理解にもつながっていく。

3 産業の発達や文化からその時代をとらえる

社会全体が大きく変化していく中では、政治の流れだけでなく、人々の生活の様子が変化していく。

学習指導要領の歴史的分野の内容(3) 中世の日本の内容では、中世の特色を大きくとらえさせる観点から、それぞれ、政治・外交面と社会・文化面を中心とする二つの中項目で構成されている。「イ 農業などの諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。」とあり、技術面の進歩に伴い諸産業が発達したことや、新たに生まれて現在にまで結び付いている文化がみられることに気付かせる。

(7) 歴史のテーマ

大問	小問	問 題	正答	主な 誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
7	(1)	A～D の写真資料がつくられた時期を古い順に並べ替える。 A 土偶 B 平等院鳳凰堂 C 東大寺 大仏 D 東大寺南大門 金剛力士像	A C B D	A C D B		63.2	2.1	65
	(2)	A の資料の使用目的について、その説明として最も適切なものを、 1～4 の中から一つ選ぶ。 1 魔よけや食物の豊かさをいのるために使われた。 2 定期市の商売繁盛を願うために使われた。 3 たくましく成長してきた民衆や、自分の運命を切り開いてきた武士の、心のよりどころとして使われた。 4 豪族たちの権威を示すために使われた。	1	3		83.3	2.6	80
	(3)	B の建造物が建てられた頃の人々の信仰の内容について正しいものを 1～4 の中から一つ選ぶ。 1 わかりやすく実行しやすい、日蓮などの新しい仏教の教えが、民衆や武士に広まった。 2 仏教や経典が百済から朝廷におくられ、仏教が日本に伝わった。 3 天台宗や真言宗など、人里離れた山奥の寺で学問や厳しい修行をする仏教が広まった。 4 念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う、浄土信仰がおこった。	4	2		56.9	2.4	65
	(4)	C の大仏が建てられた頃の日本と外国とのかわりを表す語句として最もふさわしいものを 1～4 の中から一つ選ぶ。 1 遣隋使 2 遣唐使 3 日宋貿易 4 勘合貿易	2	1		53.7	2.2	60
	(5)	D の金剛力士像がつくられた時代の幕府の政治について、 <u>まちがっているもの</u> を 1～4 の中から一つ選ぶ。 1 幕府は、生活が苦しくなった御家人を救うために徳政令という法令を出した。 2 幕府は、朝廷に政治の実権を取り戻そうとした後醍醐天皇らによって倒された。 3 幕府は、それまで豪族が支配していた土地と人民を、公地・公民として国家が直接支配する方針を示した。 4 幕府は、京都に朝廷を監視する六波羅探題を置いた。	3	1. 2. 4		40.9	2.3	60

(単位：%)

歴史のテーマ

問題 7 (3)

さちこさんは、**B**の建造物が建てられた頃の人々の信仰について調べました。その内容として正しいものを、次の**1～4**の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 わかりやすく実行しやすい、日蓮などの新しい仏教の教えが、民衆や武士に広まった。
- 2 仏教や経典が百済から朝廷におくられ、仏教が日本に伝わった。
- 3 天台宗や真言宗など、人里離れた山奥の寺で学問や厳しい修行をする仏教が広まった。
- 4 念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う、浄土信仰がおこった。

分析 正答率は 56.9%であった。平等院鳳凰堂と浄土信仰の関連が理解できているかをみる問題である。時代による人々の仏教に対するとらえ方の違いを理解させることが必要である。

問題 7 (4)

さちこさんは、**C**の大仏が建てられた頃の日本と外国とのかかわりについて調べました。この頃の日本と外国のかかわりを表す語句として最もふさわしいものを、次の**1～4**の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 遣隋使
- 2 遣唐使
- 3 日宋貿易
- 4 勘合貿易

分析 正答率は 53.7%であった。誤答の多くは遣隋使で、正解の遣唐使との混同である。各時代の外国とのかかわり（特に中国・朝鮮）を理解することが重要である。

問題 7 (5)

さちこさんは、**D**の金剛力士像がつくられた時代の幕府の政治について調べました。この幕府の政治について述べた文としてまちがっているものを、次の**1～4**の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 幕府は、生活が苦しくなった御家人を救うために徳政令という法令を出した。
- 2 幕府は、朝廷に政治の実権を取り戻そうとした後醍醐天皇らによって倒された。
- 3 幕府は、それまで豪族が支配していた土地と人民を、公地・公民として国家が直接支配する方針を示した。
- 4 幕府は、京都に朝廷を監視する六波羅探題を置いた。

分析 正答率は 40.9%であった。誤答である 1、2、4 を選んだ生徒の割合はほぼ同じであった。
(1) 元寇後の徳政令、(2) 幕府の滅亡と後醍醐天皇、(4) 承久の乱後に設置された六波羅探題と、いずれも鎌倉時代の学習の中でキーワードとなる語句がある。(3) の豪族や公地・公民などの語句は時代が異なることを理解できていないことが分かる。

指導のポイント

学習指導要領の歴史的分野の目標 (2) と (3) には以下のように書かれている。

- (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。
- (3) 歴史にみられる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などにも関心をもたせ、国際協調の精神を養う。

- 18 -